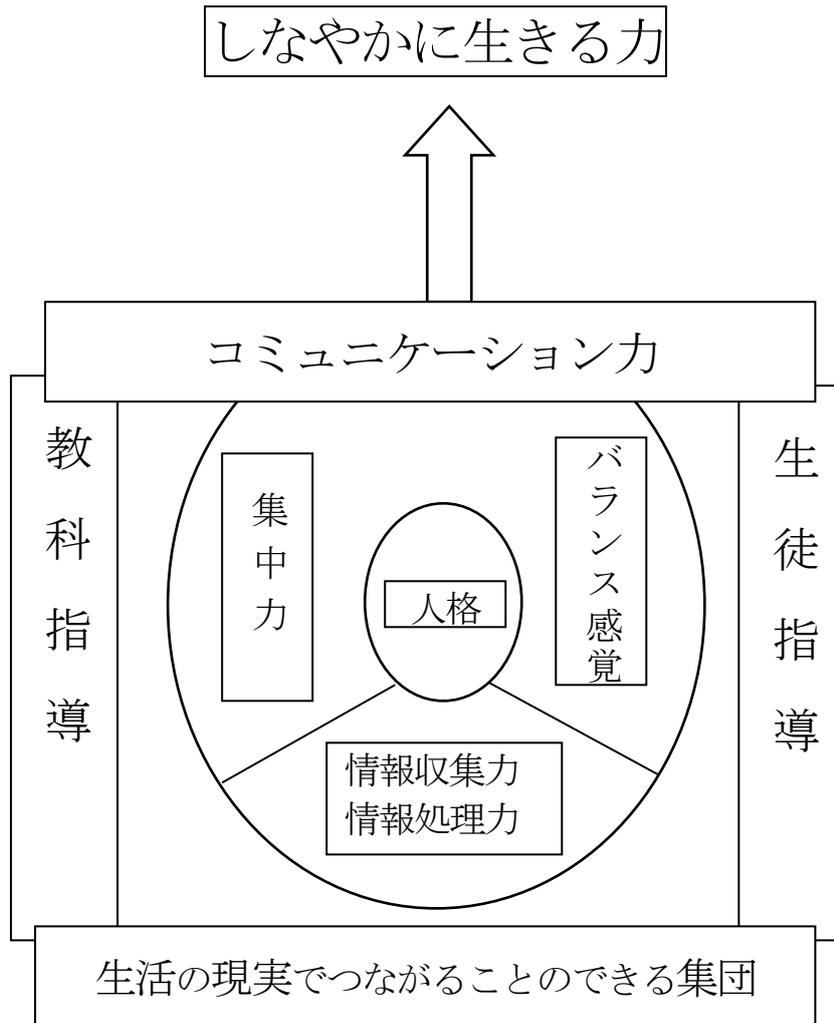


変化に柔軟に対応できる吉中生

= 健全な人権感覚と確かな学力を育成する授業の創造 =



- ・ 保護者，地域とのつながり (願い)
- ・ 学校情報の透明化と発信
- ・ コンプライアンス

## 平成27年度 重点目標

学力・生活力の方程式 = 考え方 × 意欲 × 能力・資質 × 人的環境

◎ 考え方 (ただひらすらやる (+), いつでもできる (-))      ◎ 意欲 (熱意)  
◎ 能力 (知能)      人的環境 (集団の質, 支えるおとなの存在)

①生活規律の確立 ②学力向上 ③学校の危機管理能力の向上 ④情報の共有化 ⑤PDCAサイクルの確立

平成26年度 学校協議会から提言された本校の課題 (概略)

- ①更に地域人材や大学生を広く活用した授業づくりを図られたい。コミュニケーション力・英会話力・日本文化の知識を総合的に外国人に紹介することも企画されたい。
- ②朝読, 授業公開習慣充実のための創意工夫。朝読, 習熟度別少人数指導の意義の説明と徹底。
- ③生徒が「わかりやすく楽しい」と感じられる授業づくりの研究。
- ④「志を持った自立した人間」の育成に向け, 常に遠い先の目標を描かせる仕掛けを工夫し実践されたい。
- ⑤不登校問題については人間関係だけでなく, 心や体の病気により起因することも含め, 充分考察をされたい。
- ⑥生徒が中学校の構成員としての自覚を持ち, 自分の役割を考えられるような指導が必要。意見交流会等の工夫を。
- ⑦職場体験においては取り組みを見直し, 充実したものへ。(生徒の意識格差から)
- ⑧学校内だけではなく, 学校外等でも生徒の活動を支援しているボランティアの存在を認識されたい。
- ⑨スマホの使用に係る問題について, 家庭のルール, 生徒の自主規制のみならず, 学校と家庭の連携による「持たせない」「買わない」の徹底と共に, 地域・保護者・学校・町教委・警察・生徒会等で構成する対策委員会を設置し, 研修の企画など, 全ての関係者での取組の推進が必要である。
- ⑩スマホによる諸問題, ドラッグ, 性被害等に関する防犯教室の充実を。
- ⑪小規模化する学校への対応として, 新しい学校づくりの推進。(近隣の学校との行事連携など含め)
- ⑫小規模化と「学校に行くのが楽しい」「挨拶の積極さ」「将来の夢・目標」との関係性の考察。
- ⑬「あこがれの職業」を問うような, 職業観を育て, 夢・目標につながるようなキャリア教育の推進。
- ⑭少人数加配, こども支援コーディネーターの活動を評価する。年度ごとに教科がかわらないように, また加配数の削減が内容に強く教育委員会に要望されたい。
- ⑮給食について改善への努力は評価できるが, 不満率を考慮し, 抜本的改善の要望を。
- ⑯生徒も一人の人格を持った人間であることを前提に, 教職員の言動が, 社会人として, 生徒の模範となるよう心掛けられたい。

## 平成27年度具体策

### ○ 教育課程について

教科指導力の向上を図る。 選択と集中。

- ①授業時間数の確保。
- ②全ての学年に道徳副教材を購入し, 年間計画に基づき指導する。
  - ・授業公開週間(11月2日～7日)を継続すると共に, 地域人材を活用した授業内容を創意工夫する。
- ③配置された加配教員(数2, 英1)を最大限活用して, 数(全学年)と英(3年)の習熟度別指導の実施率を50%に上げ, 学力向上に努める。
  - ・チャレンジテストに対応できる授業展開を行う。      ・教科と領域指導の中で, 集中力, 情報を収集し, 処理する能力の育成を図る。      ・生徒の自学自習力の向上のため, 学生・地域人材活用等ボランティアを活用した放課後・土曜日(主にテスト前)の補充学習を行う。年間目標50回。
  - ・教科指導力の向上に努め, 生徒の学力向上や進路の幅の拡大を図る。研究授業(年間6回)と地域に開く公開授業習慣をもつ。      ・生徒による授業アンケート(年間2回, 学校教育自己診断含)を実施する。
  - ・府, 全国, 諸団体等の作品展, 読書感想文等のコンクールに積極的に参加, 応募する。
- ④支援教育, 通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援, 通級指導の充実を図る。

- ・個別の支援計画は保護者の同意のもとに作成する。 ・支援生徒の学力区、生活力の向上のため、支援学級指導の在り方について検討する。交流学級での指導のあり方や目標設定を明確にして、常に保護者との連携を図り、効果や課題を共有する。 ・情報収集のため、進路先や校区の小学校等へ積極的に訪問する。

⑤目標に準拠した評価のあり方を検討し、公立校の受検時に提出する調査書に対応する。

## ○ 生徒指導について

### 生きる力の3欲の一つである群欲の育成を図る。原理原則。

- ①生徒の生活の原点を見据えた指導を行う。困った生徒はいない。困っている生徒はいる。
  - ・生徒に寄り添い、保護者・地域とのつながりを密にする。欠席時をチャンスととらえ、軽いフットワークで稼ぐ。 ・挨拶から始まり、つながる人間関係づくりを進める。生徒会やPTAとともに挨拶運動の展開。
- ②学校での生活環境を整える。
  - ・全員清掃，1回/月（第3水曜）の黙動清掃を行う。
- ③不登校0，いじめ早期解決をめざす。
  - ・スクールカウンセラー，ソーシャルワーカー，家庭支援等，配置された学校支援者と協働で取り組む。
  - ・4，9，3月にミニ懇談会を行い，生徒の心の声を聞き取り，情報を共有する。 ・学校生活・いじめ等アンケートを1回/学期（7，12，3月）実施する。 ・学年別諸課題は，こども支援コーディネーターが府対策を提示し，管理職，生徒指導主事，学年生徒指導担当者，学級担任，学年団，関係職員等，学校総体で取り組み，早期解決を図る。
- ④明確な目標を設定し，クラブ指導を行う。
- ⑤生徒会等生徒代表者と学校協議会やPTA役員との意見交流会を行い，課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。
- ⑥生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。
  - ・3年生：修学旅行，進路相談。 2年生：職場体験学習，校外学習。 1年生：福祉体験，職場訪問，命の大切講演会。 ・ふれあいのつどい：9月12日（土）に実施予定。 ・放課後，土曜日自習学習会（主にテスト前）

## ○ 学校の危機管理について

### 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）

- ①コンプライアンスの徹底を図る。
  - ・ルールを守る。信頼に応える。不当要求の排除。
- ②学校の事故防止のため，日常の安全点検，報告・連絡・相談を行う。学校協議会や関係諸機関との連携を密にする。
- ③学校情報を透明化し，積極的に発信する。
  - ・学校だより，学年・学級だより，進路だより，保健だより，図書だより，等を定期的また随時発行する。
- ④学校文書，公金，諸経費等の管理は，関係諸機関と連携して行う。
- ⑤生徒・保護者・地域への学校ルールの指導と統一と徹底を図る。
  - ・学校協議会，PTA各種委員会，地域の諸会議時に，学校のルールや現状の情報発信を行い，学校総体としての仕組みづくりを行う。 ・防犯教室，避難訓練等，複数回実施する。

## ○ 本校の将来像と信頼される学校作りについて

### ぶれない判断基準をもつ

- ①授業参観（4月18日，6月5日）と授業公開週間（11月2日～6日），計6日間実施する。
- ②学校教育活動に地域等のボランティアとPTAの支援を説教教的に活用して，学校の諸課題（学力，学習の充実・クラブの支援）の解決を図る。家庭が学力，子育ての原点であることを確認する。
- ③小規模化に伴う，学校運営のあり方を見直す。
- ④吉川中学校区小中一貫推進会議特別委員会提言書をもとに具体的な活動を推進する。
- ⑤学校協議会を学校評議会的なものとして位置づける。
  - ・学校が，保護者や地域住民等の信頼にこたえ，家庭や地域と連携・協力して，一体となって生徒たちの健やかな成長を図るため，様々な視点の幅広い意見を求める。